

# オフィスを再構築する 準備はできていますか？

テクノロジー主導型の変革によって  
従業員を支援しましょう

フロスト&サリバンビジュアルホワイトペーパー

## CONTENTS

- 3 仕事の新しいロジック
- 4 テクノロジー主導の変革が新たなオフィスの基盤となる
- 5 将来の新しい働き方に向けてオフィスを刷新する
- 6 テクノロジー主導型会議スペースの登場
- 7 小規模コラボレーションスペース
- 8 オープン コラボレーションスペース
- 9 会議室
- 10 公平な会議の実現: 差異の解消
- 11 ロジクールの取り組み
- 12 行動喚起: ハイブリッドワークスペースの構築に必要な7つのステップ

## 仕事の新しいロジック

仕事のあり方は大きな変化を遂げました。オフィスも以前と同じではいられません。

今日、オフィスワーカーはハイブリッドワークを選択することが主流になっています。従業員がオフィスに向かうのは、通勤するだけの意味がある、明確な理由がある場合のみです。そのため、オフィスの役割も変わってきています。

オフィスは、従業員がコラボレーションを効果的に行い、より強固な人間関係を築き、一丸となってイノベーションを推進する場となっています。

ほとんどの企業は、従業員に少なくとも週のうち数日は出勤してほしいと考えています。IT部門の意思決定者とビジネスリーダーを対象とした最近の調査によると、以下のようなことが明らかになっています。



オフィス勤務のみ、あるいはリモートワークのみの従業員はわずか**9%**です。残りの**91%**はハイブリッドワークで働いています。



**68%**の企業が、今後2年間で全従業員の4分の1以上がハイブリッドワークになると予測しています。



トップマネージャーとリーダーの半数以上(**52%**)が、ハイブリッドワークを好んでいます。**25%**がリモートワークを、**23%**がフルタイムのオフィス勤務を好んでいます。



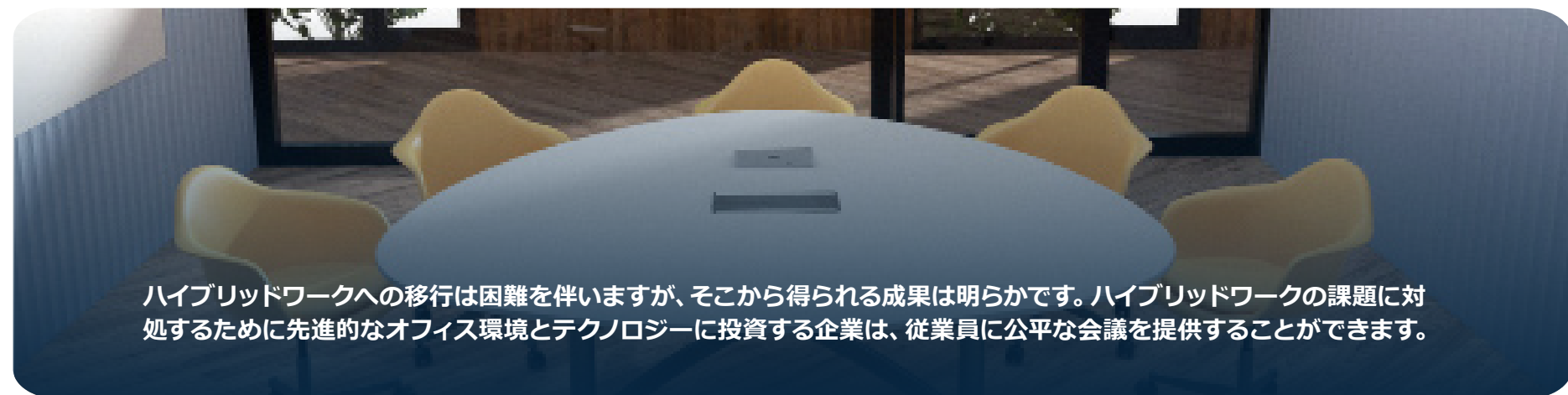
**89%**のビジネスリーダーが、優秀な人材を引き付け、定着させることが重要な目標だと考えています。



**48%**の企業が、分散している従業員に対応するため、会議スペースの増設を行う計画を立てています。この割合は昨年**36%**でした。



今後のコミュニケーションおよびコラボレーションツールに対する投資計画の中で、IT部門の意思決定者が優先する事項の**上位3つ**は、クラウド会議、プロフェッショナル向けウェブカメラ、専用のビデオ機器となっています。



ハイブリッドワークへの移行は困難を伴いますが、そこから得られる成果は明らかです。ハイブリッドワークの課題に対処するために先進的なオフィス環境とテクノロジーに投資する企業は、従業員に公平な会議を提供することができます。

出典: フロスト&サリバン、IT部門の意思決定者を対象とした投資優先度に関する年次調査、2022年1月

## テクノロジー主導の変革が新たなオフィスの基盤となる

オフィス勤務の従業員が増えると、そのニーズも大きく変化します。従業員は、リモートワークで使い慣れたものと同じオーディオ、ビデオ、コンテンツのコラボレーションテクノロジーをオフィスでも使いたいと考えます。また、継続的なコラボレーションを促進し、オフィス勤務への復帰をスムーズにするため、デスク、会議室、カフェテリア、ロビーなど、あらゆるワークスペースをテクノロジー対応にして欲しいと希望するでしょう。

自宅とオフィスで使用するテクノロジーに差があると、ユーザーに負担をかけ、生産性が低下する可能性があります。そのためIT部

門は、ハイブリッドワーカーのニーズを満たし、出社を促すようなコラボレーションテクノロジーを組織全体に提供しなければなりません。これには、テクノロジー主導の抜本的な変革が必要です。適切に実施することで、従業員側の体験の改善、生産性と効率の向上、ビジネスの成長を促進するコラボレーション環境の強化につながります。




在宅勤務かオフィス勤務かを問わず、従業員は生産性を高めるために適切なテクノロジー一式を必要とします。ビジネスリーダー、IT部門の意思決定者、施設担当者、人事チームが連携して、仕事を再度活性化し、従業員の士気を高め、どこにいても最高の仕事を行えるようにする必要があります。

## 将来の新しい働き方に向けてオフィスを刷新する

ハイブリッドワークの成功は、最高の従業員体験を生み出せるかどうかにかかっています。複雑なハイブリッドワークに対応できる、先進的なオフィス環境や次世代のコラボレーションテクノロジーに投資し、柔軟な働き方を実現することがビジネスの新しい方向性として求められています。テクノロジー主導の変革によって、従業員のリモートワークとオフィス勤務のバランスを適切に整えることができます。選択肢となるテクノロジーをリーダーが評価する場合、以下の3つの観点を重視する必要があります。

- 

**シンプルさ:** 従業員が迅速かつ効果的に仕事をこなせるように、使いやすいかどうか
- 

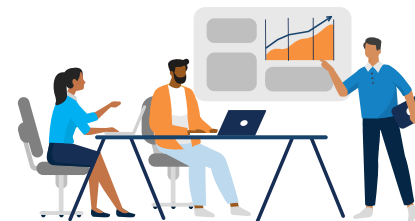
**柔軟性:** 従業員が自分たちのやり方でコラボレーションできるかどうか
- 

**管理のしやすさ:** 包括的に管理できるかどうか



### ハイブリッドワーカーが抱くニーズ:

- ▶ **どこでも自由に作業** - オフィス、自宅、外出先など、どこでもシームレスにつながり、継続的なコラボレーションを実現
- ▶ **先進的なオフィス環境** - 新たな仕事のあり方を支援する刷新された職場
- ▶ **使いやすいコラボレーションツール** - 各自が好みに応じてカスタマイズ可能で複数から選択できる、プロフェッショナル仕様のウェブカメラとヘッドセット、スマートなドッキングステーション、インテリジェントなオーディオ/ビデオ会議機器、操作が容易なコンテンツ コラボレーションツール
- ▶ **誰も取り残されない体験** - ハイブリッド環境における会議の公平性
- ▶ **ハイパフォーマンスな会議スペース** - さまざまな用途に対応するインテリジェントなオーディオ、ビデオ、コンテンツ コラボレーション



### IT管理者が抱くニーズ:

- ▶ **簡単な大規模導入** - 調達と設置が簡単かつスムーズで、優れたユーザー体験によってチームのコラボレーションを促進する
- ▶ **いつでもどこでも管理できる機能** - 従業員がどのような機器やクラウドプラットフォームを使用しているかに関係なく、どこでも監視および管理が可能
- ▶ **包括的な管理** - すべてのデバイスとクラウドサービスを一元管理
- ▶ **拡張性** - ワークスペースや会議室に関するあらゆるニーズに合わせた、幅広いソリューションのポートフォリオを提供するテクノロジープロバイダー

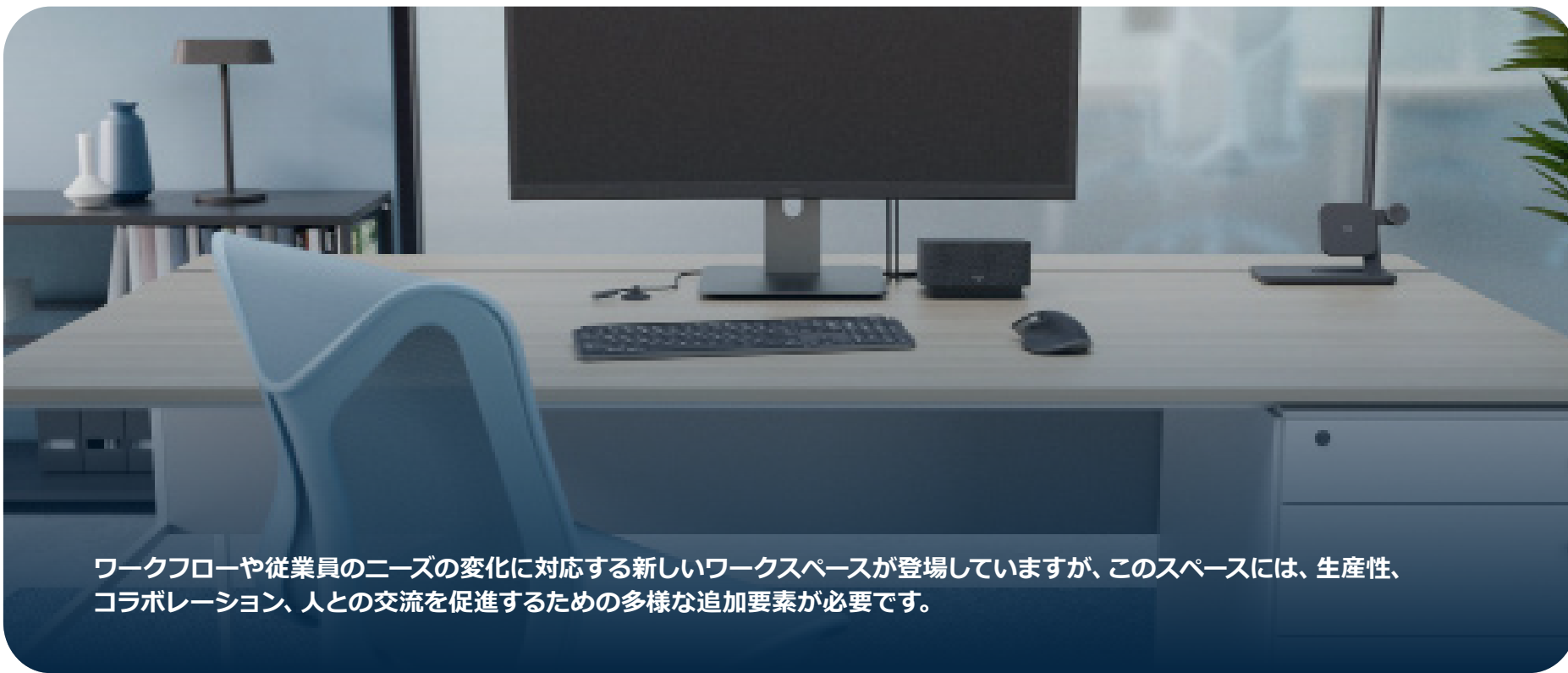
IT部門の意思決定者の半数以上が、必須または非常に重要な機能として、一元化された管理・運営機能を最も重要な要件として挙げています。

## テクノロジー主導型会議スペースの登場

新しいオフィスは、コラボレーションと創造性が生まれる拠点でなければなりません。

現代のオフィスは、テクノロジーを利用できない単なるスペースから、活気に満ちたコラボレーションが可能な環境へと進化し、リモートワークとオフィス内勤務を頻繁に切り替える従業員にとってより良い環境が整っています。

オフィスの刷新において、唯一の正解というものはありません。オフィスに復帰する従業員のニーズはさまざまです。オフィスでの勤務を希望する従業員の多くは、気が散ることなく集中して最高の仕事ができる環境、つまりプロフェッショナルな場所を求めています。また、チームメンバーとのアイデア出しやコラボレーションのため、あるいは同僚との人間関係を築くためにオフィスに来る従業員もいます。他にも多くの人が、新人研修、トレーニング、指導を受けることを目的として入社しています。



ワークフローや従業員のニーズの変化に対応する新しいワークスペースが登場していますが、このスペースには、生産性、コラボレーション、人との交流を促進するための多様な追加要素が必要です。

## 小規模コラボレーションスペース



フォーカスルーム

フォーカスルームは、静音ルームまたは思考用スペースとも言える、完全密閉型で各自が交代で使用できる1人用ワークスペースです。通常はデスクが1台設置され、一通りのテクノロジーが利用可能な集中できる環境となっています。



フォンブース

密閉型防音ブースです。短時間の音声通話またはビデオ通話を想定しています。立ったまま使用する場合も、小型の椅子を設置する場合があります。



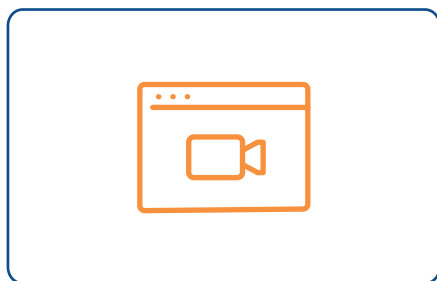
ジャンプスペースと会議ポッド

固定または移動可能な作業場所です。1~4名ほどでの一時的な作業や会議に使用します。通常は、仕事中にすぐに移動できるよう、個人のワークステーションの近くに設置されます。

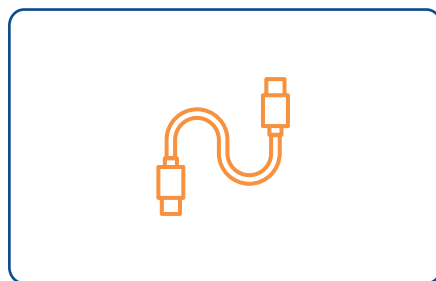
### 代表的なコンポーネント:



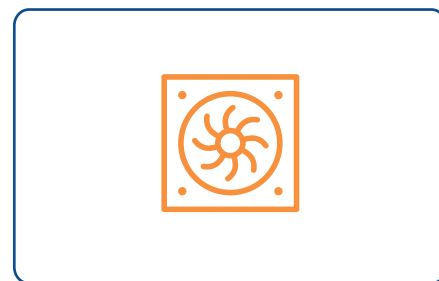
座席ありのデスクまたはスタンディング デスク、およびデスクライト



プロフェッショナル仕様のウェブカメラまたはビデオカメラを備えた小型タッチスクリーン ディスプレイ



標準USB-AおよびUSB-C接続ポートと、1つ以上のイーサネットポート（またはケーブル）を備えたコンセントをデスクに設置し、あらゆるコンテンツと会議用アプリにアクセス可能



高品質の音響および換気設備

## オープン コラボレーションスペース

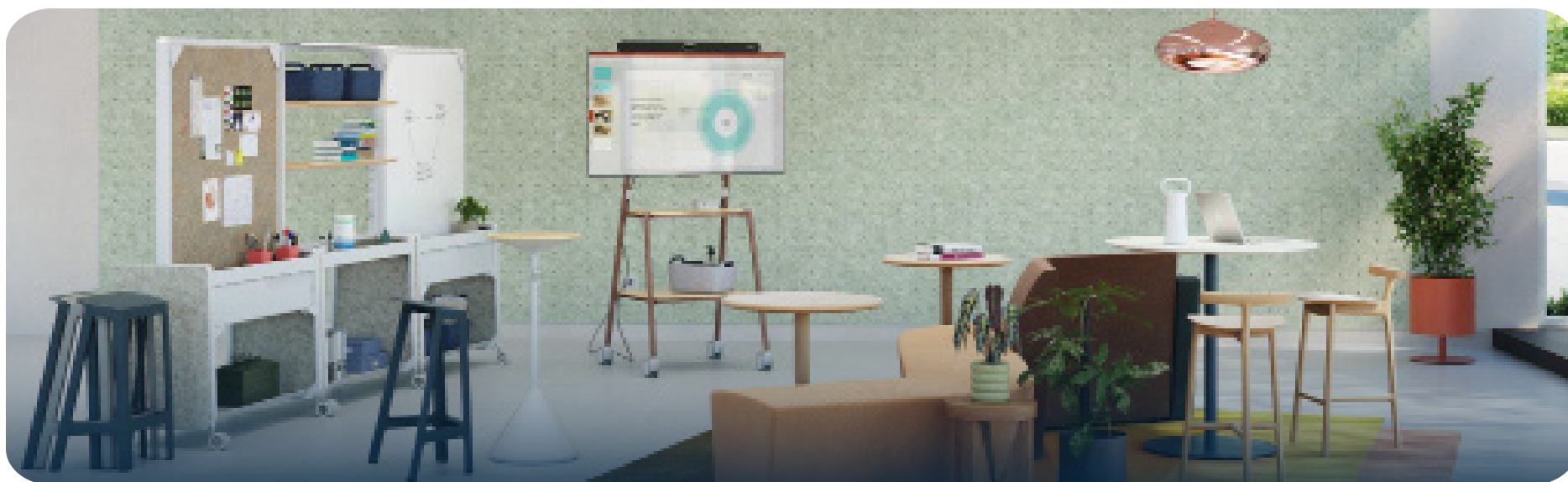
すべての会議エリアに4面の壁が必要なわけではありません。オープン コラボレーションスペースは壁が3面以下となっており、会議室よりもカジュアルな環境での一時的なコラボレーションを想定しています。

グループサイズ: 2~8名

構成 - 教室スタイルのグループ分けや、大型のインタラクティブ ボードに表示するコンテンツに基づいたスタンドアップ ミーティングなどに、柔軟に対応します。

### 代表的なコンポーネント:

- ▶ 移動可能なスタンド設置型インタラクティブ ホワイトボード
- ▶ グループでのやり取りを行うためのマルチタッチ ディスプレイ
- ▶ フル機能のオーディオ/ビデオ会議システム
- ▶ あらゆるスペースでのコラボレーションを可能にするモバイル機器
- ▶ 大規模スペース用オプションとしての55インチまたは85インチ ディスプレイ





## 会議室

### コラボレーションに対応した会議室



小規模スペース/ハドルルーム  
最大6名分の座席



中会議室  
6~10名分の座席



大会議室  
11名以上分の座席

**構成** - 広さや用途に応じた適切な機器を備えた、さまざまなサイズの会議室。

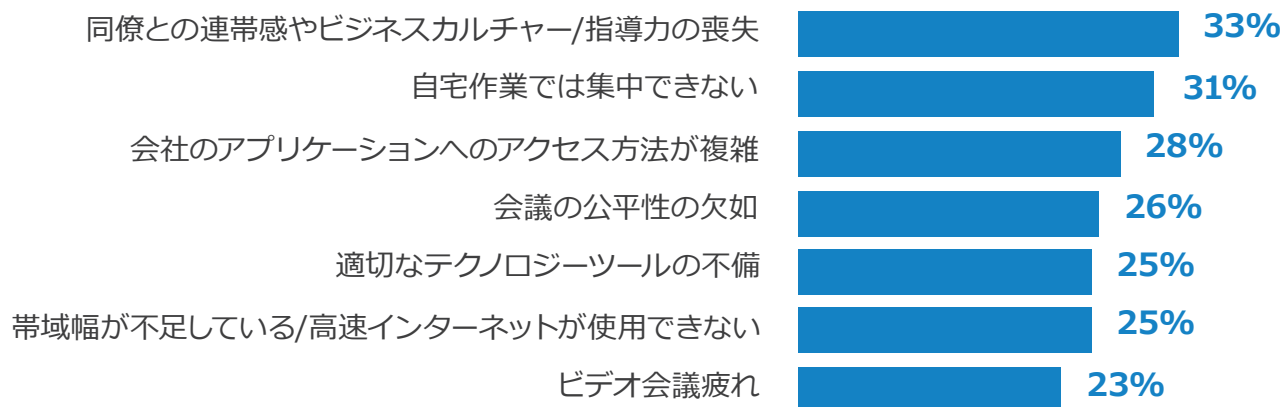
#### 代表的なコンポーネント:

- ▶ 55インチまたは85インチのマルチタッチ シングル/デュアル ディスプレイ。参加者がビデオやコンテンツに集中できるよう、会議室の前方に設置
- ▶ インテリジェントなオーディオ/ビデオ会議機能
  - ▶ 目の高さに設置するビデオカメラ。スマートな自動フレーミング機能と高度な光学系を搭載
  - ▶ 周囲の雑音の除去と音声拡張機能
- ▶ 参加者全員の声を拾うための拡張マイク (オプション)
- ▶ 参加者全員の姿が見える家具 (大会議室用のV字型テーブルなど)
- ▶ 有線接続が必要な機器 (コントローラ、カメラ、スピーカー、オプションの拡張マイク、周辺機器) が乱雑になるのを防ぐ、テーブル下などの配線器具
- ▶ 追加の卓上型会議用カメラ (会議の公平性を確保)
- ▶ 会議室外に設置する、使用状況と使用率を示すスケジューリングディスプレイ

## 公平な会議の実現：差異の解消

新しいタイプのワークスペースは、従業員により良い体験を提供し、オフィス勤務への復帰を促しています。ただし、ほとんどの会議には、リモートからの参加者が少なくとも1人はいます。オフィスからとリモートから、両方の参加者によるハイブリッド会議では、意思疎通がスムーズにできないことがよくあります。

### ハイブリッド/リモートワーク モデルに関する懸念事項のトップ



出典：フロスト&サリバン、IT部門の意思決定者を対象とした投資優先度に関する年次調査、2022年1月

性能の低いオーディオ/ビデオ機器やコンテンツ共有機能を使用しなければならない状況では、リモートからの参加者が不利益をこうむります。オンラインのビデオ会議で使い慣れた、その場にいるかのような体験を提供するオーディオ/ビデオ機器が必要なのです。

会議の不公平性は、各参加者の映像をリモートからの参加者によく見えるように最適化することで、ある程度は対処できます。具体的には、AI搭載の高性能カメラで会議室内の人物を検出し、Grid Viewで自動的に参加者をフレーム内に収めます。しかしながらほとんどの場合、特に大会議室での会議では、参加者が常に会議室前方のカメラの方を向いているとは限りません。

例えば、話者がリモートからの参加者に向けて話している場合は、会議室の前方のカメラが話者の顔を正面から捉えます。ところが、テーブルの向こう側にいる会議室内の参加者に話しかける場合、話者は前方のカメラの方に顔を向けるということはありません。このような場合、リモートからの参加者には状況がよく見えないため、会議の公平性が損なわれます。

**真に公平な会議を実現するには、楽に会話についていけるよう、いくつもの視点をカバーする複数のカメラを使う必要があります。** 公平性を高め、誰も取り残されない自然な会議を実現するには、卓上型会議用カメラを追加し、話者が会議室内の参加者に話しかけた際に自動的にカメラと視点が切り替わるようにします。これにより、リモートからの参加者は、それぞれの話者を自然な姿で見ることができます。

## ロジクールの取り組み

ロジクールは、オフィス内勤務とリモートワークの差を埋めようとしています。独自のデザイン重視のアプローチにより、明確な目的を持った、有意義な製品を作ることに重点を置いています。ロジクールは、シンプルで簡単なコミュニケーション体験を実現し、自宅、オフィス、その他のあらゆる場所で利用できる幅広いデバイスをハイブリッドワーカーに提供します。

### ロジクールの差別化要因

- ▶ **ビデオ**: 最高のビデオ品質を実現するUltra HD 4Kカメラ
- ▶ **オーディオ**: 良質で自然なサウンドを実現する、非常にひびきの少ないスピーカー
- ▶ **会議に必要な自動機能**: RightLight™による照明と色の最適化、RightSight™による自動フレーミング、RightSound™によるノイズ抑制、エコーキャンセレーション、自動レベリング
- ▶ **AI活用の光学系**: RightSense™テクノロジーと、コンピュータビジョン専用のサブカメラにより、自動フレーミングとカメラ制御を強化
- ▶ **RightSight**: 自動的にレンズを動かし、ズームを調整するカメラ制御テクノロジー。誰も取り残されることなくハイブリッド会議の公平性を向上
- ▶ **新製品** ロジクールSight\*: ロジクールRally BarおよびRally Bar Miniと連携可能な、卓上型カメラシステム。Sightは卓上カメラからの視点と会議室の前方のカメラからの視点を組み合わせて、誰も取り残されない真に公平な会議を実現



- ▶ **シンプルで個性的なデスクトップ体験**: スピーカーフォン搭載の一体型ドッキングステーションであるLogi Dock。主要なビデオ会議サービス、高品質のパーソナル ウェブカメラ、プロフェッショナル ヘッドセットと連携
- ▶ **認定デバイス**: Zoom、Microsoft Teams、Google Meetの認定を受けているため、ユーザーが現在使用しているビデオ会議プラットフォームと機能を活用可能
- ▶ **ロジクール Sync**: 大規模パートナーエコシステムによる、クロスプラットフォーム ソリューション用オープンAPIなどを備えたクラウドベースのリアルタイム監視、管理、分析ソフトウェア
- ▶ **柔軟な参加モード**: BYOD (Bring Your Own Device)、あらゆるPCおよびMacとのプラグ&プレイ対応USB接続、アプライアンスモードに対応
- ▶ **すっきりした配線**: 内蔵のケーブル管理機能と柔軟なマウントオプションで会議室を整頓
- ▶ **サステナビリティ**: 再生プラスチックを使用。環境に優しいパッケージの採用。カーボン・オフセットへの取り組み

## 行動喚起: ハイブリッドワークスペースの構築に必要な7つのステップ

世界は一変しました。従業員を、旧態依然としたオフィスに戻すべきではありません。

職場の急激な変化に備えるためには、テクノロジー主導型の変革を推進し、従業員の生産性と士気を維持しつつ、確実にビジネスを成長させなければなりません。これを実現するには、オフィス空間、テクノロジーアーキテクチャ、運用規定の根本的な見直しが必要です。

多くの企業では、柔軟性、業務への関与、サポートに対する従業員の要求に応えるための技術的基盤が不足しています。ビジネス部門とテクノロジー部門のリーダーが最も重視しているのは、組織全体でより優れたチームワークとコラボレーションを目指すことです。

ハイブリッドワークの複雑性を、仕事と私生活の両面で必要とされる変化を早急に実現するための、またとない機会として捉えてください。誰も取り残されない積極的なコラボレーションができる柔軟性のある職場で、従業員がオフィス環境とテクノロジーにシームレスにアクセスできるよう、以下の7つのステップに投資しましょう。

- ▶ ハイブリッドワーク特有のニーズに対応するため、オフィスのデザインと設備を一新
- ▶ 積極的なコラボレーションを支援する、テクノロジーを駆使したオフィス環境を構築
- ▶ タッチ操作でビデオ会議に参加できるシンプルなユーザー体験 (UX) を提供
- ▶ リモートからとオフィスから、双方の参加者の差を埋める、誰も取り残されない公平な会議の実現
- ▶ IT部門があらゆる場所にあるすべてのデバイスを簡単に監視、管理する機能を提供
- ▶ 業界トップクラスのクラウドサービスとのネイティブな連携機能を活用して、「融合による よりよい体験」を提供
- ▶ サステナビリティを追求

ロジクールは、モダンワークソリューションの詳細については、以下をご覧ください。

[logicool.co.jp](https://logicool.co.jp) >



成長とは、旅のようなものです。私たちがそのガイドを務めます。

フロスト&サリバンは、60年以上にわたり、企業、政府機関、投資家に実用的なインサイトを提供し、革新的な成長機会を次々にもたらしてきました。これにより当社のお客様は、経済性を最大化し、新たなメガトレンドに乗り、持続可能な成長を基盤として未来を形作っています。

**お問い合わせ:ディスカッションを開始 >**